

高齢者ケアサービス論

担当教員 生野 繁子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 変化する日本の高齢者ケアサービスのあり方を再確認し、看護福祉・健康支援の課題を探る。
2. 少子高齢社会と人口減少の進展に伴う地域包括ケアシステムと、高齢者ケアサービスのあり方を展望する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入 授業計画の説明・日程調整・受講生の自己紹介・高齢者ケアサービスに関する経験など
2	ケア関連領域での高齢者ケアに関する教育の変遷
3	国が進める地域包括ケア
4	介護保険法の理念・各国の制度の展望
5	介護保険法の概要・改正点
6	介護保険法によるケアサービス
7	老人福祉法によるケアサービス
8	自治体独自による高齢者ケアサービス
9	地域密着・小規模多機能高齢者ケアサービス
10	高齢者ケアサービスを支える財源
11	公的年金制度と高齢者の生活
12	介護保険制度によるグループホーム・小規模多機能施設見学研修
13	自治体サービスによるグループホーム見学研修
14	ケア実践者のNPO法人によるデイサービス等の施設見学研修
15	高齢者ケアサービスにおける看護福祉・健康支援の課題についてディスカッション

【履修上の注意事項】

1. 履修者数により、講義の展開順序に変化もありうる。
2. 履修する院生は、それぞれのテーマに沿ってレジュメやレポートを作成しディスカッションする。
3. 施設見学研修は履修登録確定後に日程調整する。

【評価方法】

提出レポート50%、発言内容50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

1. 最新版「高齢社会白書」「介護六法」「社会福祉六法」等。
2. 他、必要時に随時紹介する。

ヘルスケアシステム論

担当教員 徳永 淳也

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

国民医療費の高騰と情報化の推進などを背景として、保健・医療・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、医療（健康）情報の共有とサービスの質保証の重要性が再認識されている。本論では、ヘルスサービスの各領域における質的保証と情報管理に関する具体的な課題提示から出発し、それらの背景にある特徴的な問題理解のための視点を欧米の先行研究レビューを踏まえて明らかにすることを目的とする。

【授業の展開計画】

質的評価の視点から注目されている顧客満足度やサービス提供者の職務満足度を中心とするサービスのアウトカム評価指標や質改善に関して、グループ討議や論文紹介等を通じて理論的理解を深め、実践的問題解決能力を習得する。講義は、概ね以下の内容に沿いながら進められるが、当該内容に関する研究論文の発表を通じて、批判的な研究評価法等についても習得することが望ましい。

1. 医療と社会、医療システムの評価
2. 医療小史と法制度からみた医療システム
3. 医療と経済、市場機構
4. 供給者誘発需要と代理関係
5. 保険の理論と健康保険
6. 産業としての医療
7. 医療の経済的評価
8. 医療における質評価と管理
9. 研究事例1：医療の質評価とは
10. 研究事例2：職務満足度と患者満足度-職種、職階、疾病による特徴-
11. 研究事例3：医療従事者の職務環境と患者アウトカムの関連
12. 研究事例4：医療の質は患者アウトカムに影響を与えるか
13. 研究事例5：医療保険支払い方式が患者アウトカムに与える影響
14. 研究事例6：医療従事者のマンパワー充足と医療の質
15. 研究事例7：医療施設の組織風土が医療の質におよぼす影響

【履修上の注意事項】

講義は、提供されたトピックスについての議論を中心に進めるので、問題意識を持って講義に望むこと。また、課された論文についての発表を行わなければ単位は認められないので注意すること。

【評価方法】

論文発表50%、講義や論文を題材とした討議内容50%の割合で評価する。

【テキスト】

講義中に適宜紹介する

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

医療統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、実際の事例に即した演習を取り入れながら、看護・福祉分野における統計学の基礎知識と各種手法を習得し、それぞれの専門分野における調査研究や、現場での実務作業を遂行する上で、得られたデータを統計学的手法を用いて分析できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	統計学と確率論
2	記述統計, 各種統計量の定義
3	正規分布, t分布, χ^2 乗分布, F分布
4	標本調査と母集団, 点推定と区間推定
5	検定の考え方, 2種類の過誤, サンプルサイズ
6	2つの平均値の差の検定 (t検定)
7	ノンパラメトリック検定 (順位和検定・符号検定)
8	比率の検定 (対応あり, 対応なし), オッズ比
9	適合度の検定, 独立性の検定
10	残差分析, マクネマー検定
11	分散分析と多重比較
12	相関関係と相関係数, 回帰分析
13	重回帰分析
14	ロジスティック回帰
15	総合演習

【履修上の注意事項】

テキストがないので、講義の内容を事前に予習しておくこと。また、演習問題を中心に復習をし、考え方のプロセスを理解すること。わからないことは質問するなどして、早めに解決しておくこと。

【評価方法】

統計処理の演習のレポートを課し、適切な統計手法が選ばれているか、結果の判断は適切か、結果をわかりやすくまとめて表現できているか、などを実践的に評価する。

【テキスト】

テキストは使わず、適宜プリントを配布する

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介する。

応用倫理学

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間の健康と不健康、正常と異常、見守りと介入などにおいて、その境界における倫理的判断の感覚の形成をめざします。キーワードとして「作為と不作為」を選択し、この視点から、いかなる時点でどのように「介入」すべきか、それとも「放置」の形態を取り、当事者による「気づき」を待ちつつ「見守る」かーハンセン病当事者の聞き書きを重ねて「質的な研究法」を習得し、倫理に関わる問題発見と解決法のセンスを磨きます。

【授業の展開計画】

本学社会福祉学科主催による「第1回 公開学術シンポジウム 薬害エイズとハンセン病問題がこれからの看護・福祉に問いかけるもの」（2003年12月）に端を発した著作『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（山本務・熱田一信編、本の泉社、2007年）を共通テキストとする。また、現下の日本の諸現実に対して、「作為と不作為」という概念枠によって初めて見えてくる諸出来事を手繰り寄せ持続的にフォローし、その当事者に対する精神的な支援の可能性を追求する。

これとともに、応用倫理学の観点から、ドイツの研究書などを拙訳（未発表）によって原理的に、かつ体系的に追求した成果を摂取する。

聴講者による要約報告を中心としてすすめてゆく予定であるが、聴講者の理解程度に即したものとしたい。また、本学学部社会福祉学科による公開授業「社会福祉特講Ⅰ」で「当事者」（生命と生活の危機と人権侵害の危機に晒され、周章狼狽し、混乱を来した人生から社会的な支援を訴え、社会的な承認闘争に立ち上がった人）による「語り」をよく聴き取る機会を設けているので、この科目の受講が望ましい。

【履修上の注意事項】

物事を原理的に考え抜く意欲性を望む。

【評価方法】

授業中の報告＝50点、レポート＝50点。

【テキスト】

Jonathan Glover, Causing Death and Saving Lives, Penguin Books 1990

山本務・熱田一信編著『ハンセン病・薬害問題 プロジェクト 作為・不作為へ』（本の泉社、2007年5月）

【参考文献】

演習中、適宜提示。

健康医科学

担当教員 ○掃本 誠治、樋口 マキエ、加藤 浩、未定、永田 俊明、平崎 和雄、
二塚 信、永田 憲行

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 将来「医学」「健康」をキーワードにした有能な高度専門スタッフの育成を目指し、健康科学、医科学、臨床医学全般についての基礎的知識を修得し、健康、医学、そして人間とは何かについて理解できる。
- (2) 健康科学、医科学領域での研究を推進するために必要な科学的裏付けを得るための基礎的研究手法を理解し、大学院生として必要な問題意識を持って情報収集、情報分析、そして新知見を発見できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	ガイダンス、医学概論・生命倫理	(掃本)
2	医科学研究概論①(疫学入門)	(二塚)
3	医科学研究概論②(遺伝薬理学入門)	(掃本)
4	医科学研究概論③(遺伝・環境要因と疾患入門)	(掃本)
5	医科学研究概論④(薬物治療学入門)	(樋口)
6	医科学研究概論⑤(東洋医学入門)	(未定)
7	人間機能・形態学入門①(人体の構造と機能)	(永田憲)
8	人間機能・形態学入門②(心臓の構造と機能)	(掃本)
9	人間こころ心理学概論	(永田俊)
10	人間疾病・治療学概論(免疫学入門)	(掃本)
11	健康科学概論①(人間スポーツ科学)	(平崎)
12	健康科学概論②(筋機能科学—身体不活動の影響)	(加藤)
13	臨床医科学概論①(小児科学、障害者教育)	(永田憲)
14	臨床医科学概論②(内科学)	(掃本)
15	臨床医科学概論③(生活習慣病と疾患)	(掃本)

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日、時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

討論(50%)、レポート内容(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

複数の分野にわたる講義なのでテキストは使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じ、適時紹介する。

精神保健臨床論

担当教員 ○茶屋道 拓哉、野田 隆峰、木村 義則、藤瀬 昇、福田 洋子、和田 冬樹

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 平成28年度より「心身医学論」から「精神保健臨床論」へ科目名変更。

【授業のねらい】

裾野の広い精神保健学的視座を養うと同時に、メンタルヘルスに関するトピック等から臨床実践例に触れる機会を準備する。本講義を通じ、院生自身の関心のあるメンタルヘルス現象をバイオ・サイコ・ソーシャルを含む多角的視点から捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神医学総論（野田）
2	統合失調症（野田）
3	老人の精神疾患（野田）
4	摂食障害・神経症・心身症（野田）
5	パーソナリティ障害（野田）
6	身体疾患による精神疾患・リエゾン（野田）
7	小児・思春期の精神疾患（木村）
8	感情障害・自殺関連（藤瀬）
9	アルコール・薬物依存（和田）
10	臨床心理カウンセリング総論（福田）
11	臨床心理カウンセリング症例（福田）
12	現代社会における精神保健の諸問題（茶屋道）
13	心の健康と精神科ソーシャルワーク（茶屋道）
14	いじめ・ひきこもり・不登校へのソーシャルワーク（茶屋道）
15	メンタルヘルス課題におけるチーム医療（茶屋道）

【履修上の注意事項】

院生は主体的に講義に参加し、日常的に問題意識を持ち活発な質疑により学習内容を深めるよう努力すること。特に自身の修士論文テーマと、毎回の講義テーマを関連づけて、問題意識や事前学習を深めて講義に参加するとともに、講義後の振り返りを行うこと。

【評価方法】

授業中のレスポンス（主体的な発言とディスカッションの内容や深まり）30%
レポート70%

【テキスト】

特に使用しない。必要に応じて資料を準備する。

【参考文献】

授業の中で適宜指示をする。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(1/4)

【授業のねらい】

世界保健機関（WHO）は「健康」について次のように定義している。「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」つまり、健康とは「疾病または病弱でないということだけではなく、肉体的、精神的ならびに社会的にも完全に良好な状態」を指す。

【授業の展開計画】

[総論]

1. 加藤 浩：テーマ【健康支援科学の学問的背景】

キーワード：健康，健康支援，ヘルスプロモーション

概要：健康支援科学通論は、「健康寿命」と「ヘルスプロモーション」の概念をベースに「身体のケア」及び「心のケア」，および「身体のケア」の側面から，対象者の健康支援に関わるための多職種相互理解と連携強化を目指す基盤科目である。健康支援科学専攻設置の趣旨とその社会的意義について概説する。

2. 川俣 幹雄：テーマ【健康支援のための介入法と効果検証】

キーワード：介入法，EBM，メタ・アナリシス

概要：公衆衛生学的な視点から見た健康支援のための代表的な2つの介入法（ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチ）について学ぶ。さらに介入後の効果検証について，EBMの概念とそれを導き出すための基礎的統計手法（オッズ比，相対リスク比，メタ・アナリシス等）について学ぶ。

[各論]

3. 生野 繁子：テーマ【ケアとジェンダー】

キーワード：ジェンダー，ケア，男女共同参画社会

概要：古来、人々の営みはジェンダーと大きく関わっている。現代社会のジェンダー視点と男女共同参画の現状を概説し、具体的に暮らしの中のあり方とケアに関するジェンダーの影響を考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景，学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため，講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜，紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(2/4)

【授業のねらい】

つまり、健康とは①身体機能、②精神機能、そして③社会福祉の3つの要素を有機的に連携したものである。そして、本学の医療・福祉の専門職養成大学の特性を加味すれば、健康支援とは医療的アプローチ（医学、理学療法学、鍼灸学、口腔保健学、看護学）と社会科学的アプローチ（社会福祉学、心理学）の両側面を基盤とした複合科学として位置づけることが出来る。

【授業の展開計画】

[各論]

4. 生野 繁子：テーマ【ジェンダー視点からの介護予防と介護者の健康支援】

キーワード：ジェンダー、介護予防、介護者支援

概要：高齢者が地域においてQOLを保ち自分らしく過ごすために、自分自身の介護予防と、要支援要介護者及び家族介護者の健康支援は重要な課題である。要支援要介護の原因疾患の性差、介護する男性の増加に伴う介護者支援の現状と課題を教授し、健康な生活と家族支援についてジェンダー視点から考察する。

5. 福本 久美子：テーマ【働く女性の健康支援】

キーワード：労働の質、ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル

概要：女性のライフスタイルの特徴から過度なダイエットによる健康リスク、女性特有のガン、更年期障害や閉経後の循環器疾患等、様々な健康課題が存在する。超高齢社会にむけ、女性の労働力は重要な資源である。働く女性が労働の質を高め健康な暮らしを送るためには、個人のライフスタイルの改善のみならず、健康的な社会環境の整備を図ることが重要である。働く女性の健康課題とその支援の実態について、ヘルスプロモーションとソーシャルキャピタルの視点から実践事例と研究成果について教授する。

6. 山本 恵子：テーマ【看護学領域からみた転倒予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、高齢者、認知症

概要：高齢者の転倒の9割が生活の場で起きている。高齢者の生活の場は、自宅のみならず施設など多様化し、健康レベルも自立から要介護者、認知症まで様々である。本講義では、多様な背景をもつ高齢者への転倒予防の実際と課題について教授し、認知症を含めた支援について、議論を通して考察する。

7. 加藤 浩：テーマ【理学療法学領域からみた転倒予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、生活機能トレーニング

概要：先進国を中心に高齢化社会を迎え、高齢者の転倒は、生活機能の低下に直結し、医療・社会的に極めて重要な問題となっている。転倒の内因性リスク因子としては、バランス障害、筋力低下、視力障害などが挙げられ、これら身体機能レベルに対する理学療法戦略の有効性について最新のエビデンスを提示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(3/4)

【授業のねらい】

また、近年、本邦で策定された「新健康フロンティア戦略－健康国家への挑戦－」では、具体的アクションプランが提示されており、その中でも「歯や口腔の健康」、「メタボリックシンドローム対策」、「転倒予防」、「介護予防」、「疾病予防」、「女性の健康」、「こころの健康」、「食の選択」、「スポーツ振興」、「子供の健康」などは重要なキーワードとして位置づけられている。

【授業の展開計画】

8. 二宮 省悟：テーマ【高齢者スポーツと健康支援】

キーワード：高齢者スポーツ、トレーニング効果

概要：健康増進の1つとして、スポーツ活動に取り組む高齢者は年々増加し、さらにその活動内容も多様化している。それに伴いスポーツ傷害に対する医療ニーズも高まってきている。傷害予防のために高齢者の身体機能を如何に向上させるかが重要課題である。高齢者の身体トレーナビリティについて生理機能側面から最新のエビデンスを提示しながら教授する。

9. 川俣 幹雄：テーマ【がん予防と健康支援】

キーワード：がん予防、生活習慣

概要：がんは、1981年からの約30年間日本における死亡原因の第1位であり、総死亡の約30%を占めている。がんは難治性の疾患であるが、一部のがんは、予防可能であることが様々な疫学的研究によって示されている。本講義では、①がんのリスクファクター、②日本と欧米におけるがんの疫学的相違、③生活習慣とがんの予防戦略、④1次予防と2次予防などについて教授する。

10. 塚本 紀之：テーマ【鍼灸と免疫～東洋医学からみた感染症予防への健康支援～】

キーワード：未病、免疫、神経、リンパ球、サイトカイン

概要：鍼灸による免疫調節の基礎となる神経系による免疫調節についての最近のトピックスを中心に、東洋医学の古典にみられる免疫の概念なども解説しながら、鍼灸による感染症予防への健康支援について教授する。

11. 内田 匠治：テーマ【鍼灸学（東洋医学）からみた介護予防】

キーワード：経絡、気功、ロコモティブシンドローム

概要：運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を示す「ロコモティブシンドローム」の対策として推奨される運動と東洋的な身体訓練法（気功・太極拳など）を比較しながら、伝統的な身体技法の介護予防に対する有用性について考察する。さらに東洋的な身体観に基づく経絡や経穴を用いた運動器への介入が介護予防に有用であるということについても実例を示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○加藤 浩、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石川 裕子、金子 憲章、
川俣 幹雄、徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(4/4)

【授業のねらい】

そこで当該授業は大きく2段構成とする。まず、第1～2回目はヘルスプロモーションの視点からとらえた健康について講義し、健康支援科学の学問的背景及びその研究対象領域の概説を教授し全体像の把握を図る。次に第3回目以降の講義からは、より専門的視点から健康支援科学についての各論を展開し、医療と福祉の有機的連携の必要性を学ぶ。そして、これら知識を臨床場面で実践応用できるようになる。

【授業の展開計画】

12. 内田 匠治：テーマ【東洋医学からみた「こころ」の健康支援】

キーワード：心身一如、氣、鍼灸、漢方

概要：東洋医学では身体が切り離せないもの（心身一如）という考え方がある。また精神活動と身体活動の両面にまたがって作用する「氣」という上位概念があり、こころという無形のものに対して、身体を介して治療するという発想がある。それらが、鍼灸・漢方臨床としてどのように実践されているか実例を交えながら東洋的な「こころの健康」観について教授する。

13. 徳永 淳也：テーマ【口腔保健学的接近と健康支援科学の展開】

キーワード：口腔保健学、社会疫学

概要：口腔保健に関する疾患分布、食行動や健康観等の諸相やその口腔保健学的捉え方について、社会で生活する人間という視点から理解することの重要性を先行研究を踏まえて説明し、健康支援科学としての口腔保健学的接近の社会的意義について考察する。

14. 金子 憲章：テーマ【う蝕・歯周病予防の健康支援】

キーワード：う蝕、う蝕、生活習慣病、歯周病原性細菌、炎症性サイトカイン

概要：う蝕を予防する方法を教授し、歯髄、根尖性組織への波及を防止する。また、生活習慣病としての歯周病の定義を理解し、歯周病の原因である歯周病原性細菌の直接的障害作用や歯周組織内で産生された炎症性サイトカインによる肥満・糖尿病、心血管疾患、出産、呼吸器疾患への影響を分子生物学的に教授し、う蝕・歯周病予防による健康支援を考察する。

15. 石川 裕子：テーマ【口腔機能と栄養からみた健康支援】

キーワード：口腔機能、栄養、食生活

概要：口腔には、食べる、話す、表情をつくる、栄養摂取など多くの機能があり、歯や唾液の数や量が変わることによって色々な弊害を伴う。口腔の各機能を概説し、歯と栄養摂取、歯数と死亡率などの関係について書かれた論文を紹介したうえで、個人および職種としてできる「口腔機能と栄養からみた健康支援」について考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

ヘルスプロモーション論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

健康課題の変化とそれに対応する健康概念およびヘルスプロモーション理念の発展と動向を理解し、実際の活動状況を具体的資料をもとに把握してヘルスプロモーションアプローチの重要性および多様性について理解する。

【授業の展開計画】

健康は、種々の要因によってその保持や増進、阻害などが規定される。近年においては、ライフスタイルの多様化に伴う生活習慣病や高齢化に伴う認知症、高度ストレス社会の結果としての精神障害等が著しく増加している。EBMに基づくヘルスプロモーション研究も非常に進展しており、健康阻害のリスクファクターもかなり明確化されてきており、それらに対応する社会科学的・政策的健康増進対策も進み、包括的な予防や増進の視点からヘルスプロモーションアプローチの重要性が高まっており、具体的な活動も世界各地で展開されてきている。

そこで、本講義では、主として以下の内容について教授する。

- ① 健康概念、健康の決定要素およびヘルスプロモーション概念について
- ② 効果的なヘルスプロモーションアプローチの計画、実践、評価、媒体、EBMの視点について
- ③ アラ・マータ宣言およびオタワ憲章およびそれ以後のヘルスプロモーション国際会議の主要な論点について
- ④ 欧米のヘルスプロモーション施策および健康教育の推移や考え方について
- ⑤ 欧米以外のヘルスプロモーション施策および健康教育の推移や考え方、および欧米との異同について
- ⑥ 精神保健に関わる特異な健康問題へのヘルスプロモーションアプローチについて
- ⑦ ヘルスプロモーションの対象課題ごとの取り組みの状況とその考え方について
- ⑧ 健康都市づくり運動の内容と進展について
- ⑨ わが国における健康日本21やアメリカのHealthy People等の各国の健康増進施策特徴と課題について

【履修上の注意事項】

講義形式と演習形式のミックスで行う。

【評価方法】

講義中の意見や質問を重視する。また、全員にレポートを課する。講義態度20%、レポート80%とする。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

講義の中で指示する。

看護教育論

担当教員 ○大池 美也子、原田 広枝

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

【授業のねらい】

1. 授業設計および授業方法、評価に関する考え方を説明できる。 2. 看護教育に必要とされる授業・演習・看護実践などの指導課程を研究的に思考できる。 3. 行動主義モデルを中心とした教育から自主性を育む教育的学習を理解できる。 4. ケアリングを基盤とした看護の教育方法について説明できる。 5. 専門職の成長・発達に貢献できる学習経験の過程と特徴を説明できる。 6. リフレクションを基盤とした教育方法を列挙できる。

【授業の展開計画】

≪1-7コマ担当：原田≫

1-2. 看護基礎教育・卒後教育・現任教育における教育制度の現状と課題

3-5. 生涯学習理論家の理論の理解と現任教育への活用（文献購読）

6-7. 看護職者・臨地実習における、学習プログラムの作成（演習）

【履修上の注意事項】

提示された事前課題（資料配布）を通読しておくこと。

【評価方法】

原田：レポート(50%)、発表と授業への参加態度(50%)

大池：発表と意見交換(50%)、レポート(50%)

【テキスト】

原田：生涯学習時代の成人看護学、渡邊洋子、明石書店、2002

大池：「ベナー ナースを育てる」P. ベナー（医学書院）

【参考文献】

①経験からの学習、松尾睦、同文館出版、2008 ②看護リフレクション入門、東めぐみ、ライフサポート社、2009 ③Expertise in Nursing Practice, Patricia Benner, et al., Springer Pub., 2009 他

看護管理論

担当教員 横山 利枝

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年の医療を取り巻く現状を理解し、問題解決を進めるために、制度・政策の変遷を知り、医療界、看護界の未来を概観し、さらに高度な看護実践を行う専門看護師に必要な看護管理の基本になる諸理論や技術を体系的に学び、看護管理学に関する研究能力および実践能力を高める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護管理学概論 1
2	看護管理学概論 2
3	日本の医療サービス提供システム
4	医療経済の仕組み
5	看護マーケティング
6	看護サービス提供の課題
7	看護経営・経済論
8	看護と組織
9	人的資源管理
10	キャリア開発
11	看護倫理とサービス管理
12	サービス管理とリスクマネジメント
13	諸外国における看護管理教育
14	看護サービス管理と研究
15	まとめ

【履修上の注意事項】

看護管理に関する問題意識や課題を持って受講する方が効果的

【評価方法】

授業態度50%、レポート40%、討論参加10%

【テキスト】

講師作成の講義資料及び編集中西睦子『看護サービス管理』第4版 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する

看護倫理

担当教員 ○柴田 恵子、生野 繁子、樋口 マキエ、宮里 邦子、山本 恵子、二宮 球美、
開田 ひとみ

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

【授業のねらい】

1. 看護倫理に関連する基礎的知識を習得する。
2. 臨床における倫理的諸問題へ意識を向け、看護職としての考え及び対応を考察する方法を理解する。
3. 看護倫理への関心と行動への意欲を維持するために必要となる自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護倫理に関する基本的内容の確認(柴田)
2	倫理綱領の概念の理解、倫理的諸問題に関する考え方と対応(柴田)
3	成育医療分野における看護倫理：小児看護を中心に(二宮)
4	成育医療分野における看護倫理：母性看護を中心に(宮里)
5	老年看護学における看護倫理：ジェンダーを中心に(生野)
6	老年看護学における看護倫理：認知症を中心に(山本)
7	在宅看護分野における看護倫理：在宅終末期看護を中心に(開田)
8	在宅看護分野における看護倫理：神経難病患者の看護を中心に(開田)
9	研究倫理：看護研究における研究倫理(樋口)
10	研究倫理：実験研究におけるデータ取得(樋口)
11	看護実践における倫理的諸問題と対応(柴田)
12	看護教育における倫理的諸問題と対応(柴田)
13	看護倫理に関するテーマ設定と討議(柴田)
14	看護倫理のテーマに関する発表(柴田)
15	総括：看護倫理への関心と行動への意欲を維持するために必要となる自己の課題(柴田)

【履修上の注意事項】

オリエンテーション時に授業計画を確認し、講義前に授業内容に関連する専門用語、関連事項について調べておくこと(予習)。講義終了後は、作成したレポート等の内容について加筆、修正を行うこと(復習)。

【評価方法】

参加・態度：40%、レポート：60%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

小西恵美子：看護倫理、南江堂、2014. 松木光子：看護倫理学、ヌーベルエッセイ、2010. 坪倉繁美：看護倫理の基本、医学芸術社、2006. 杉谷藤子・川合政恵：ケアを深める看護倫理の事例検討、日本看護協会出版会、2011.

コンサルテーション論

担当教員 宇佐美 しおり、未定

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

コンサルテーションのタイプ、モデル、プロセスを理解し、高度看護実践家に必要なコンサルテーションの理論と技法の修得をめざす。また状況や場面に応じたコンサルテーションの活用方法についても教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国内外の高度看護実践家の役割と機能
2	コンサルテーションの定義、タイプ、モデル、プロセス、他の治療との違い
3	ケース中心のコンサルテーション
4	コンサルティ中心のケース・コンサルテーション
5	プログラムに関する管理コンサルテーション
6	コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション
7	倫理に関するコンサルテーション
8	組織・倫理的問題に対するコンサルテーション
9	未定
10	未定
11	未定
12	未定
13	未定
14	未定
15	未定

【履修上の注意事項】

講義とロールプレイを交えて行う

【評価方法】

レポート30%、ロールプレイ70%

【テキスト】

宇佐美しおり・野末聖香編(2009):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会

【参考文献】

Ann, B, Hamric(2008):Advanced Practice Nursing, An Integrative Approach, 4th Edition, Saunders

看護理論

担当教員 森田 敏子

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 高度看護実践のための看護理論の歴史の変遷と発展過程について、自分の言葉で説明できる
2. 卓越した看護実践の基盤となる看護の諸理論と看護現象との関係について、自分の言葉で説明できる
3. 看護専門領域への看護理論の批判的吟味による活用について、自分の見解を説明できる
4. 看護・医療、闘病に関するビデオ視聴による看護観の形成と理論の深化について自分の見解を説明できる
5. 看護実践と看護理論のつながり、適応、活用、開発の意義について、自分の言葉で説明できる

【授業の展開計画】

授業でPPと資料を用いて看護理論の歴史の変遷と発展過程および諸理論を概説する。

看護の諸理論のプレゼンテーションと討議により、看護理論と看護現象との関係を深化させる。

看護および医療、闘病記に関するビデオ視聴による看護観の形成と理論との関係の深化について討議する。

【授業内容】

1. 看護理論の歴史の変遷：ナイチンゲール以前の看護
2. 看護理論の誕生：ナイチンゲールの『看護覚書』、看護現象の記述、説明、予測、コントロール
3. 看護理論の歴史の変遷：ゴルトマークレポートからブライソレポートへ、専門職としての歩み
4. ナイチンゲールの看護論（環境論）からペパーの看護論（人間関係論）へ
5. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：ランバートエンの看護論（チーム・シグ、カンファレンス）、ヘンダーソンの看護論（エド論）
6. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：アブテラ（患者中心の看護）からオランダ（人間関係論）、ウィーティンバック（人間関係論）へ、そしてリディアホル（コア、ケア、ケアモデル）へ
7. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：ユラとウオルシュ（体系的な科学的看護の方法論：看護過程）、POS（記録システム）、看護診断（臨床判断能力と電子カルテ時代への挑戦）
8. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：ロジャース（看護科学）、オレム（セルフケア論）
9. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：トラベルビー（人間関係論）、ロイ（適応モデル）
10. 看護実践の基盤となる看護理論と特徴：ワツ（ケリング）、ベナー（看護師の成長過程、新人から達人へ）
11. 看護実践の基盤となる中範囲理論と特徴：家族理論、発達課題理論、役割理論、コンフォート
12. 看護実践の基盤となる中範囲理論と特徴：不安、ストレス・危機理論、コーピング理論
13. 看護実践の基盤となる中範囲理論と特徴：自尊感情、自己効力感、エンパワーメント、レジリエンス
14. 看護実践の基盤となる中範囲理論と特徴：健康信念モデル、病みの軌跡、障害の受容過程
15. 看護実践を特徴づける看護理論の特徴と基本的考え方、理論と実践の関係の再確認

【履修上の注意事項】

予習をして授業に出席する。プレゼンテーション資料は単なる理論の概説だけでなく、理論の事例への適応と考察を加えること。グループ討議ではメンバーとして意見交換の責務を果たし、主体的に学びを深める。

【評価方法】

授業態度と授業への貢献度（30%）、文献理解とプレゼンテーション（40%）、個人レポート（30%）

【テキスト】

筒井真優美編：看護理論20の理解と実践への応用、南江堂、

筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価、医学書院。

【参考文献】

佐藤英子編：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門第2版、日総研出版社。

城ヶ端初子監修：実践にいかす看護理論19、サイオ出版社。

看護政策論

担当教員 荒木 紀代子

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

保健医療福祉制度は、社会・経済的要因を背景に絶えず調整されて、その時に必要な制度・政策が作られる。疾病構造の変化、少子・高齢化、ライフスタイルの多様化の中で保健医療福祉制度改革が行われており、看護政策は大きな転換期を迎えている。講義では、今まさに必要とされる看護政策のあり方について、理論、歴史、実証の3つの面から考察し、看護の発展的立場に立って看護政策の提言に資することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護政策の意義
2	看護行政組織の機能と役割
3	看護政策の歴史的変遷
4	戦前の看護政策
5	戦後混乱期の看護政策
6	看護政策形成開始期
7	看護政策形成期
8	看護政策の現状分析
9	保健師助産師看護師法について
10	看護教育制度について
11	看護師等の需給について
12	看護政策の今日的課題
13	看護人材確保問題
14	医療・看護を取り巻く状況からみた看護政策問題
15	まとめ

【履修上の注意事項】

講義とディスカッションを混ぜながら進めていくので、問題意識を持って臨んでもらいたい。

【評価方法】

講義における参加・貢献度(40%)、レポート等(60%)で総合的に評価する。

【テキスト】

随時指示する。

【参考文献】

平成29年版 看護六法／新日本法規

基礎看護学特論

担当教員 柴田 恵子

配当年次 1年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

患者・看護者の援助関係を中心に倫理性に関する認識について教授する。文献講読、討議を通して、対象となる文献の論点を自らの論点に引きつけ、主張を論述する能力を身につける。

【授業の展開計画】

関係性、援助、自己決定、自己・他者、ケアの倫理・正義の倫理、看護技術という看護ケアに関係するいくつかのキーワードをもとに文献を読み、筆者の主張点を明らかにし内容について分析し討議する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	中間報告会の資料を基に意見交換-1	17	論述方法を説明する
3	中間報告会後の意見の修正と発表	18	論述方法を応用する
4	課題文献からレポートを作成する	19	研究課題について説明する
5	課題文献を読み、論点の見出し方を知る	20	意見交換と発表
6	課題文献を読み、論点整理と論述を知る	21	研究課題の学術的背景を説明する
7	意見交換と発表	22	研究課題の研究方法を説明する
8	課題文献の論点整理から構成への展開を知る	23	研究課題の研究計画を説明する
9	課題文献の構成の確認を知る	24	意見交換と発表
10	課題文献の論述の応用を知る	25	研究実施の準備状況を確認する
11	意見交換と発表	26	研究課題を再度、検討する
12	論述方法を確認する	27	研究課題の研究計画を完成する
13	効果的な論述方法を検討する	28	意見交換と発表
14	論述の展開を確認する	29	研究課題について報告する
15	意見交換、まとめ	30	研究課題について報告書にまとめる

【履修上の注意事項】

レポート作成を行ない、出席者の人数分の部数を準備すること。

【評価方法】

参加・態度：40% 作成してきたレポートを発表する。討議に積極的に参加する。
レポート：60% レポート内容

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

基礎看護学演習

担当教員 柴田 恵子

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

看護の倫理、哲学に関連する分野に加え受講生の研究テーマに沿った国内及び海外文献から最新情報を得、演習での討議材料とし研究の方法を修得する。

【授業の展開計画】

受講生の研究テーマに沿った研究方法を見出し、その手法について学習し習得を目指す。講義は4期に分かれており、以下のとおりである。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	16	中間報告会後の見直し
2	先行研究の文献を批判的に読む	17	中間報告会後の意見交換
3	先行研究を基に研究テーマを再考する	18	研究方法を習得する：質的研究
4	意見交換と発表	19	研究方法を習得する：量的研究
5	研究に関連する文献の発表・意見交換	20	研究デザインと研究方法
6	研究に関連する文献のまとめ	21	研究目的と研究方法
7	報告会：発表の方法を知る	22	研究方法を習得する：研究データの取得
8	研究に関連する文献の発表	23	研究方法を習得する：研究における倫理
9	研究に関連する文献の精読・意見交換	24	報告会：自身の研究の計画を説明する
10	報告会：効果的な発表の方法を知る	25	文献の精読：研究テーマとの関連づけ
11	研究計画を再考する	26	文献の精読：研究方法の確認
12	再考した研究計画の発表	27	文献の精読：考察の確認
13	研究テーマ・計画の報告準備	28	これまでの成果報告
14	これまでの成果報告	29	報告を振り返り文章化する
15	学習内容のまとめ	30	学習内容をまとめ報告書を作成する

【履修上の注意事項】

基礎看護学特論と合わせて授業展開を行うので、授業計画を確認しておくこと。

【評価方法】

参加・態度：40% 作成してきたレポートを発表する(予習)。レポートを基に積極的に参加する。授業後は学習内容を振り返り、作成したレポートを修正する(復習)。
レポート：60% レポート内容

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

基礎看護学研究

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

研究テーマを明確にし、研究手法を用いて論文を作成し発表する。その過程を通して、研究の基礎的能力を身につける。

【授業の展開計画】

<第1学期：30回；以下の1-15回分、第2学期：30回；以下の16-30回分>

1期（1-7回）…これまでの成果を報告し、参加者からの意見を基に研究計画を再考する。2期（8-15回）…研究を計画に沿って遂行し、論文を作成する。

3期（16-22回）…これまでの成果を報告し、参加者からの意見を基に研究の課題を見出す。4期（23-30回）…論文を作成し発表する。発表時の意見を基に論文内容を修正し、より完成度の高い論文を作成する。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	中間報告会の報告準備、プレゼン、修正	16	検討した研究計画の発表と修正
2	報告会の振り返り	17	調査データの分析
3	研究倫理についての学習	18	調査データの分析と報告
4	調査実施に向けての準備と修正	19	調査データの考察
5	修正した調査の確認	20	考察の文章化（第1回）
6	研究デザインの確認、研究背景の整理	21	研究の報告（第1回）
7	研究背景の文章化（第1回）	22	研究背景から考察までの見直し、修正
8	実施した調査のデータ整理	23	修正した研究内容の文章化（第2回）
9	実施した調査のデータ整理と報告	24	研究の報告（第2回）
10	調査のまとめ	25	再修正した研究内容の文章化（第3回）
11	調査のまとめと報告	26	研究の報告（第3回）
12	調査についての文章化（第1回）	27	論文のまとめ（第1回）
13	報告：研究背景および調査	28	報告会の準備、修正
14	研究デザインの確認と修正	29	修正した論文のまとめ（第2回）
15	研究の見直しと検討	30	研究についてのまとめ

【履修上の注意事項】

学生は主体的に研究課題に取り組む。必ず担当教員に計画についての事前報告、実施状況の事後報告を行なう（予習・復習）。

【評価方法】

最終的に修士論文を作成し、提出、審査に合格することによって単位を認める。

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

看護病態機能学特論

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：基礎看護学分野
選択：基礎

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

【教育目標】

対象をその地域に生活する人間として総合的に把握し、正常な生体機能に連続したものとして病態をとらえ、科学的根拠に基づく看護・保健活動ができる指導者になれる。

【授業の展開計画】

【授業概要】

高齢社会に突入した今日、生活習慣病や認知症を伴って生活していく高齢者が増加している。循環器疾患やせん妄の発症および増悪には、ストレスが大きく関与している。特に虚血性疾患の病態において、これらのストレス因子による顕著な自律神経緊張の影響が問題となる。自律神経系活性には日内リズムがあるが、加齢、病態、環境、生活習慣等により変動する。看護の実践現場で、対象者に侵襲を与えることなく自律神経緊張状態を知り対応を考えていくことは、看護アセスメントを深め、看護の質を向上させる。ひいては対象者の生活の質（QOL）を向上させることにつながる。

これらに関連した出版物を用い、論理的な看護実践の基盤となる、正常と異常の生命現象および生体の内的外的環境の変化に対する制御機能について教授する。

【授業計画】

- (1) 各種の過度のストレスは、生体内情報伝達系を介し、いびつな身体的・精神的緊張を随伴する。この様な状態を、身体的・精神的柔軟性が低下した、即ち、生命の予備力が減少し生活の質が低下したと考え、健やかに生きている状態について論説する。（10コマの授業）
- (2) 正常生体機能と病態機能との違いを、特に糖尿病、高血圧、虚血性疾患等の生活習慣病について展開する。これらを基礎疾患として持つ生体の機能は変化している。その原因となる各種臓器の構造、微小循環、虚血病態、エネルギー代謝、および内因性（情報伝達物質）外因性生理活性物質（薬物）への反応の違いを論説する。（10コマの授業）
- (3) 各院生のテーマに関係する内容の出版物を参考に、研究計画を深めていく。（10コマの授業）

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

前提条件は2/3以上の出席で、準備・参加状況40%、レポート内容60%により評価する。

【テキスト】

各院生のテーマに関連した授業に必要な参考書、資料、文献等を、必要時に用いる。

【参考文献】

看護病態機能学特論

担当教員 掃本 誠治

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：基礎看護学分野
選択：基礎

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

人体の構造、機能を探索する中で、特に、循環、代謝を看護学の視点から多角的に研究し、生体の循環、代謝の解析に必要な基礎的な方法を修得し、さらにメタボリック症候群、生活習慣病などの予防など健康課題に探求的に取り組む能力を養います。また、平成28年の熊本地震の記憶は新しく、災害時には急性脳・心血管疾患が発症しやすい。災害時の二次的健康被害予防に対し看護学の視点から探求的に取り組む能力を養います。

【授業の展開計画】

メタボリック症候群、生活習慣病をベースに発症する急性脳・心血管疾患に対するアセスメントに必要な基礎的知識を習得し、基本概念を理解します。同時にフィジカルアセスメントの技術を習得し、得られた所見を基に対象者を総括的に判断・評価し、バイタルサインや病歴聴取情報とともに看護診断を行い、看護計画を立案し、看護介入にいたる方法を学びます。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス 看護病態機能学とは何か
2	メタボリック症候群の基礎
3	生活習慣病の基礎
4	災害時の健康被害の基礎
5	心臓血管解剖学①心臓
6	心臓血管解剖学②血管
7	心臓血管系に関するフィジカルアセスメントに必要な技法（病歴聴取、面接技法、診察評価）
8	急性期の心臓血管系アセスメント① 例)急性心筋梗塞
9	急性期の心臓血管系アセスメント② 例)急性心不全
10	慢性期の心臓血管系アセスメント 例)慢性心不全
11	災害時の心臓血管アセスメント
12	各疾患に対する看護病態機能学①
13	各疾患に対する看護病態機能学②
14	各疾患に対する看護病態機能学③
15	まとめ

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日、時刻を調整し、授業日を決めます。

【評価方法】

・討論（50%） ・レポート課題（50%）により総合的に評価します。
 ・レポートは、提示症例の看護アセスメントによる評価と病態生理に基づく総合的な看護判断・診断と看護介入との関わりに主眼をおいた課題とします。

【テキスト】

指定なし。適宜、講義内容を記した資料（プリント等）を配布します。

【参考文献】

適宜紹介します。

看護病態機能学演習

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

- 【教育目標】
- (1) 国内・外国の文献を検索し、最新情報を得ることが出来るようになる。
 - (2) 論文の内容を批判的に読みとれ、その主旨を理解できるようになる。
 - (3) 看護病態機能学に関する研究の経過や研究方法を、理解し実行できるようになる。
 - (4) 研究計画書と倫理委員会への提出書類を作成できるようになる。

【授業の展開計画】

- 【授業概要】
- (1) 抄読会形式で、各院生は各々、自分の研究関連分野における、興味をもった原著論文（和文・英文）を抄読し、批判的に論評すると共に、その主旨を理解し説明する。その過程で論文の構成や書き方を学ぶ。
 - (2) また、看護に関連する病態機能研究方法について討議し、生理学的、生化学的、薬理的および組織学的機能の変化を測定・評価する必要な実験研究方法を修得させる。
- 【授業計画】
- (3) 週に一回、各大学院生は、指導教員のもとで、選択した原著論文を抄読・説明し、内容について討論する。 (1年後期－2年前期：20コマ)
 - (4) 研究の方法を学びながら、研究に必要な各種機器の原理や取り扱い方を学ぶ。予備実験を行う。 (1年後期：5コマ)
 - (5) 綿密な研究計画書と倫理委員会への提出書類を作成する。 (1年後期：5コマ)

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

演習への出席し、研究方法の会得(50%)、文献の読み込み状況(50%)により評価する。

【テキスト】

各院生のテーマに関連した演習に必要な参考書、資料、文献等を、必要時に用いる。

【参考文献】

看護病態機能学演習

担当教員 掃本 誠治

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

心臓血管系障害のもとになる、メタボリック症候群、生活習慣病の病態、進展、治療の基礎知識を理解し、それをベースに発症してくる、急性心筋梗塞、心不全に関する看護アセスメントの知識、看護技術を修得し対象者を包括的に評価し、看護診断、看護計画、看護介入を実臨床において活用できる能力を身につけることができます。メタボリック症候群、生活習慣病は有病率が高く予防・啓発活動に対する国民のニーズは高い。

【授業の展開計画】

【授業概要】

- 1) 急性循環障害を伴う急性心筋梗塞、急性心不全、あるいは慢性循環障害である慢性心不全などの、急性期と慢性期では全く異なる病態である疾患における看護に関する分野の研究論文の抄読会を行い基礎知識と最新情報について取得できます。
- 2) 研究テーマ、研究デザイン、研究計画書、倫理面への配慮、データの収集、参考文献の集め方、読み方、データの結果・解析・考察、そして発表の仕方、論文の書き方など研究方法論を学習できます。
- 3) 呼吸循環兆候（バイタルサイン、心音、呼吸音等）の評価に必要なフィジカルアセスメントの知識を理解し看護技術を修得できます。

【授業計画】

- 1) 毎週1回、各大学院生は自ら選択した原著論文を抄読し、内容のディスカッションを行います。担当の時は、論文の要旨、方法、結果、考察をA4用紙にまとめたものを準備してください。
- 2) 各自の研究課題について研究計画書を作成します。
- 3) 実際のデータの収集、解析を行い、計画を進めます。

【履修上の注意事項】

最新の原著論文を抄読する。授業日は各院生の受講可能な曜日・時刻を調整し決定します。

【評価方法】

文献の抄録・発表内容（40%）、アセスメント技術の習得度（50%）、取り組む姿勢（10%）を総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

看護病態機能学研究

担当教員 樋口 マキエ

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選必：基礎看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

- 【授業概要】 (1) 各大学院生の研究テーマに添った方法で、研究を進めていけるように教授する。
(2) 研究原著論文が書けるように指導する。

- 【教育目標】 (1) 看護病態機能学の研究の過程における”ものの見方・考え方”の訓練は、看護独自の研究・理論を展開することが出来る基礎的研究能力を培うと共に、看護現場で対象者への観察を深め、問題点の抽出と把握能力、および問題解決能力を高める。(2) 原著論文が書ける。

【授業の展開計画】

【授業計画】

60コマの研究において、各院生の研究計画書に沿って、下記のような臨床実験研究を行う。

- (1) ヒトを対象とする研究では、各種のストレスの病態に及ぼす効果について、自律神経機能レベルと関連させて検証する。潜在性ストレスの程度を、侵襲の少ない自律神経機能の評価方法を用い検証し、医療・看護・介護の質を検討する。看護記録と共に、自律神経系活性は心拍変動パワースペクトル解析により、血圧は携帯型自動血圧計を用い連続的に測定する。必要な場合は、血中の調節因子を計測するこれらのデータを集積し、加齢、病態、環境、生活習慣等により変動する活性、圧反射機能、日内リズムなどを解析し、対象者への看護介入・個別的対応を考える基礎データとする。
- (2) 糖尿病や高血圧などの基礎疾患下における各種臓器・組織の虚血病態（機能変化、微小循環障害、エネルギー代謝異常等）と生理活性物質・薬物の作用の変化に関する実験研究を経験する。これらの実験研究を通して、生活習慣病患者の体内環境の変化、ストレス・自律神経緊張・生理活性物質（薬物）の影響を解析し、改善策を考える。
- (3) 対象者のQOLを疾患等の自己管理教育面から考える。
- (4) データベースの作成、統計処理、図表の作成、発表の仕方などを実践する。
- (5) 原著論文の作成方法を教授指導し、修士論文を書き上げる。
- (6) これらの研究と論文作成を通して、実証・評価の方法、研究の進め方やまとめ方などを身につける。

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

研究態度(50%)と論文の作成過程・内容(50%)で評価する。

【テキスト】

各院生の研究テーマに関連する必要な参考書、資料、文献等を、必要時に用いる。

【参考文献】

看護病態機能学研究

担当教員 掃本 誠治

配当年次 2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

心血管疾患の中でも急性循環不全は致死的です。その心血管疾患の基になるメタボリック症候群、生活習慣病の病態の解明は重要な研究課題となり、高齢化で増加している心臓病の終末像である心不全の看護視点にたった看護介入の研究は、高齢化の本邦においては重要なテーマになります。当研究室では、看護視点を意識した2つの課題を柱とします。

【授業の展開計画】

- 1) 遺伝要因と環境要因の両方の因子から心臓血管疾患の発症機序を明らかにすることで、生活習慣病予防の健康課題に探求的に取り組む能力を養います。
- 2) 高齢化と急性心臓疾患の救命率向上により増加している心不全は、あらゆる心臓病の終末像であり、心不全の病態を理解し、薬理学的な面も含めて、的確なアセスメントを行い、看護計画を立案することで、心不全患者のQOL改善を意識した看護サイドからの介入方法を開発します。
- 3) 研究対象者の倫理面を配慮したうえで、QOLを改善につなげる研究計画書を作成します。
- 4) データの収集、統合、解析を行い、わかりやすい図表を作成します。
- 5) 原著論文の作成、完成を指導します。
- 6) 研究は特定の疾患・病態を深く洞察し解析することでその疾患のみならず、他の疾患・病態に対しても、同様の観察力が身につく、臨床での疑問を意識して看護する、つまり予測して看護する能力を養います。そのことが専門的な看護と患者さんへのベネフィットにつながると思います。

【履修上の注意事項】

講義は各院生の日程を調整し、授業日を決めます。

【評価方法】

論文作成（50%）と研究態度（50%）によって評価します。

【テキスト】

各院生の研究課題に即した関連したものを適宜紹介します。

【参考文献】

各院生の研究課題に即した関連したものを適宜紹介します。

成人看護学特論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成人看護学演習

担当教員 未定

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成人看護学研究

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成育看護学特論

担当教員 ○宮里 邦子、二宮 球美

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学特論」から科目名変更。

【授業のねらい】

小児期を、受精卵から出発して胎児、新生児、乳児、幼児、学童、思春期を経て、生殖世代となって次世代を生み出すというライフサイクルの一時期として捉え、子どもが健やかな成長と発達を遂げることができ、さらには次の世代へと続いていくことができるような包括的・継続的な支援の方法や問題解決へアプローチを探究する。

【授業の展開計画】

[第1学期]

子どもを取り巻く社会環境におけるさまざまな問題について理解する。

1. 小児保健史にみる子ども(宮里)
2. 少子問題(宮里)
3. 子どもの権利(宮里)
4. 子ども虐待①歴史(宮里)
5. 子ども虐待②現状と課題(宮里)
6. 発達障がい(宮里)
7. 在宅療養児(宮里)
8. 医療と保育(宮里)
9. 病児保育(宮里)
10. 子どもの成長・発達と評価(二宮)
11. 母子援助に関する理論(宮里)
12. 小児がんの子どもと家族の支援(宮里)
13. 電話相談による医療的トリアージ(二宮)
14. 電話相談による育児相談(二宮)
15. 在宅療養児における自然災害時に対する避難体制の整備と課題(宮里)

[第2学期]

1. ～13. 各院生の問題関心に沿ったテーマを明らかにし、文献購読、討議を通して、その問題の支援、サポートシステムを構築するための方略を探究する(宮里 二宮)。
14. ～15. 問題とテーマを明確にしてレポートする(宮里 二宮)

【履修上の注意事項】

各院生と教員の日程を調整して、授業日を決定する。

【評価方法】

レポートの内容(60%)、プレゼンテーション(40%)

【テキスト】

配布資料、及び各院生のテーマに関連した参考書、資料、文献。

【参考文献】

各院生のテーマに関連した参考書、資料、文献

成育看護学演習

担当教員 ○宮里 邦子、二宮 球美

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学演習」から科目名変更。

【授業のねらい】

各自の問題関心にそって国内外の先行研究論文や文献をレビューし、問題背景や既存知見の到達度を明確にする。それらをディスカッションすることにより、論点や問題の絞り込みを行い、研究課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入、演習計画の確認	16	研究テーマ、デザイン決定
2	クリティークの視点と方法	17	研究テーマ、デザイン決定
3	原著論文の抄読とクリティーク	18	研究テーマ、デザイン決定
4	原著論文の抄読とクリティーク	19	研究計画書作成
5	原著論文の抄読とクリティーク	20	研究計画書作成
6	原著論文の抄読とクリティーク	21	研究計画書作成
7	原著論文の抄読とクリティーク	22	研究計画書作成
8	原著論文の抄読とクリティーク	23	研究準備（機器の原理や取扱いを学ぶ）
9	原著論文の抄読とクリティーク	24	研究準備（機器の原理や取扱いを学ぶ）
10	原著論文の抄読とクリティーク	25	研究準備（研究依頼書等、各種書類の作成）
11	原著から方法と論文の構成や書き方を学ぶ	26	研究準備（対象の選定や方法のための準備）
12	原著から方法と論文の構成や書き方を学ぶ	27	研究準備（対象の選定や方法のための準備）
13	原著から方法と論文の構成や書き方を学ぶ	28	研究準備（倫理委員会への提出書類作成）
14	テーマの絞り込み	29	パイロットスタディ実施
15	まとめ、レポート提出	30	研究計画書の完成

【履修上の注意事項】

各院生と教員で日程調整をして、授業日を決める

【評価方法】

原著の読み込み状況（40%）、レポート（60%）

【テキスト】

各院生のテーマに関連した参考書、資料、文献等。

【参考文献】

各院生のテーマに関連した参考書、資料、文献等。

成育看護学研究

担当教員 宮里 邦子

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学研究」から科目名変更。

【授業のねらい】

- ・ 修士論文を作成できる
- ・ 視聴覚機器を用いて、修士論文を発表できる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入、授業計画の確認	16	調査結果の分析
2	先行研究、文献レビュー	17	調査結果の分析
3	先行研究、文献レビュー	18	調査結果の分析
4	先行研究、文献レビュー	19	調査結果の分析
5	研究テーマ、デザイン決定	20	論文の執筆
6	研究テーマ、デザイン決定	21	論文の執筆
7	研究計画書作成	22	論文の執筆
8	研究計画書作成	23	論文の執筆
9	研究準備	24	論文の執筆
10	研究準備	25	論文の執筆
11	研究調査の実施	26	論文の執筆
12	研究調査の実施	27	論文の執筆
13	研究調査の実施	28	論文の修正
14	研究調査の実施	29	論文の修正
15	まとめ、整理	30	論文の完成、提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- ・ 論文発表
- ・ 論文審査

【テキスト】

配布資料

【参考文献】

適宜、提示する

老年看護学特論

担当教員 ○生野 繁子、山本 恵子

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

高齢者を生活者として理解するとともに、ケアニーズを持つ高齢者に対して、自宅・地域と病院・施設を連続した視点でとらえ、障害の原因となる疾患・予防・看護の最新の知見、高齢者ケアに関する政策・資源について日本と高齢社会各国の現状を比較検討する。また、老年看護学と専門看護師制度の推移を概観し、高齢者のリハビリテーション、高齢者ケアにおけるジェンダーの影響についても理解できる。

【授業の展開計画】

1学期 高齢社会各国の老年看護や高齢者ケアシステムの現状を理解することができる。
2学期 日本地域包括ケアシステムと高齢者ケアの現状を理解し、今後のあり方を展望し、老年看護における看護職の役割と他のケア専門職との連携について考察できる。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	導入 授業計画の確認 (生野)	16	地域包括ケアについて (生野)
2	日本の高齢者ケアシステムの概要 (生野)	17	地域包括ケアの現状 (生野)
3	日本の高齢者関係法の概要 (生野)	18	熊本県の高齢者ケアサービスの現状 (生野)
4	北欧の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	19	有明地域の高齢者ケアの取り組み (生野)
5	北欧の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	20	高齢者ケアとジェンダーについて (生野)
6	北欧の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	21	高齢者の終末期医療について (生野)
7	ドイツの高齢者ケアシステムの現状 (生野)	22	高齢者の胃瘻等について (生野)
8	ドイツの高齢者ケアシステムの現 (生野)	23	痰の吸引等医療処置に関する変遷 (生野)
9	米国の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	24	高齢者すまい法について (生野)
10	米国の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	25	高齢者の施設ケアについて (生野)
11	イギリスの高齢者ケアシステムの現状(生野)	26	高齢者のリハビリテーション看護 (山本)
12	イギリスの高齢者ケアシステムの現状(生野)	27	老年看護学の推移と専門看護師 (山本)
13	韓国の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	28	日本の高齢者ケアシステムの展望 (生野)
14	韓国の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	29	日本の高齢者ケアシステムの展望 (生野)
15	各国の高齢者ケアシステムの比較 (生野)	30	日本の高齢者ケアシステムの課題 (生野)

【履修上の注意事項】

1. 授業展開計画については日程が前後することもある。
2. 受講生のレジュメやレポートを基に進めていく。

【評価方法】

発言内容50%、提出されたレポート50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

随時紹介する

【参考文献】

最新の「高齢社会白書」および「国民衛生の動向」、「国民福祉の動向」、その他は随時紹介する。

老年看護学演習

担当教員 ○生野 繁子、山本 恵子、水崎 幸一

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

人口減少社会の高齢者政策が検討される中、高齢者ケアがどのように提供されているのか現状を把握し、高齢者を取りまく家族・専門職・高齢者自身が直面する課題について検討する。また、その課題解決に向けて看護職が先駆的に実践している例を見学研修し、保健医療福祉連携のために看護職に求められる役割、生活障害を残しやすい疾患を有する高齢者のリハビリテーション看護のあり方を展望することができる。

【授業の展開計画】

開講は1年次2学期からであり、2年次1学期に渡り変則的であるため、学習進度に注意すること。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入 1年生対象の演習計画の確認 (生野)	16	導入 2年生対象の演習計画の確認 (生野)
2	研究テーマと法的根拠の関連 (生野)	17	先行研究のサマリー作成 (生野)
3	上記を順次発表 (生野)	18	上記を順次発表 (生野)
4	高齢者ケア政策と看護の関連 (生野)	19	上記を順次発表 (生野)
5	上記を順次発表 (生野)	20	高齢者看護の課題 (生野)
6	専門職が直面する課題 (生野)	21	高齢者看護の課題 (生野)
7	介護家族のメンタルヘルス (生野)	22	研究テーマと高齢者看護の課題 (生野)
8	ケアとジェンダー (生野)	23	研究テーマと高齢者看護の課題 (生野)
9	ケアと男女共同参画 (生野)	24	実践事例の見学研修 (生野)
10	看護の倫理指針 (生野)	25	実践事例の見学研修 (生野)
11	高齢者の食事と栄養 (水崎)	26	高齢者リハビリテーション看護の課題(山本)
12	アンチエイジングと食事・栄養 (水崎)	27	高齢者リハビリテーション看護の課題(山本)
13	高齢者のリハビリテーション看護 (山本)	28	先行研究からの知見 (山本)
14	高齢者のリハビリテーション看護 (山本)	29	先行研究からの知見 (山本)
15	高齢者看護の課題の明確化 (生野)	30	高齢者政策の課題の展望 (生野)

【履修上の注意事項】

24・25回の実践事例見学研修は、受講生の研究テーマに関連した施設を検討し、日程調整後に実施する。

【評価方法】

演習における発言内容50%、提出されたレジュメやレポート50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

各自のテーマに関するものを随時紹介する。

老年看護学研究

担当教員 生野 繁子

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

少子高齢化と人口減少が進展するわが国において、家族観や高齢者ケアに対する価値観の変化を理解し、高齢者ケアに関する保健医療福祉連携、高齢者ケア施設における看護職の役割、高齢者ケアと介護保険法、介護保険サービスに対する利用者の評価、高齢者のリハビリテーション看護のあり方、地域の高齢者ケアにおけるジェンダーの影響に関する看護事象、高齢者ケアと精神看護の接点について、特論と演習の学びを基に研究する。

【授業の展開計画】

1. 自らの研究計画に基づき主体的に研究することができる。
2. ゼミや研究会において適切な報告をすることができる。
3. 学会活動や研究発表を行えるよう主体的に取り組むことができる。
4. 規定に沿って修士論文を完成させることができる。

1学期 30回

1～10. 院生運営の中間報告会で発表、文献レビューのまとめ

11～20. 調査研究活動の実施、データの分析など

21～30. 調査のまとめ、ゼミ報告会で発表

2学期 30回

1～10. 修士論文の構成の検討、論文執筆

11～20. 論文執筆、要約の作成と提出

21～30. 論文の完成、最終報告会への準備

【履修上の注意事項】

長期履修生に関しては、進捗を確認しながら別途日程調整をする。

【評価方法】

中間報告会内容20%、ゼミ報告会内容20%、提出ジュメやレポート40%、ゼミでの発言内容20%の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

各自の研究テーマに添って、随時紹介する。

老年看護学研究

担当教員 山本 恵子

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

1. 研究疑問を明確化し、研究計画書を作成し、研究活動を行うことができる。
2. 研究を進めるにあたり、多くの関係他者からも自主的に助言を求めることができる。
3. 研究結果を修士論文としてまとめることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究の意義と方法	16	研究の進捗状況報告
2	プレゼンテーションの方法	17	研究遂行状況の見直し
3	中間報告会の準備	18	調査実施後の注意：調査対象者への配慮
4	中間報告会の準備	19	修士論文構成について
5	中間報告会の振り返り：助言の活かし方	20	研究枠組みと結果の提示
6	研究疑問の明確化：文献レビュー	21	研究結果の分析と考察
7	研究疑問の明確化：文献レビュー	22	研究結果の分析と考察
8	研究倫理について	23	研究結果の分析と考察
9	倫理審査について	24	研究結果の分析と考察
10	テーマ設定と研究方法の検討	25	修士論文作成
11	研究計画書の作成	26	修士論文作成
12	研究計画書の作成	27	修士論文作成
13	調査実施前の注意：調査対象者への配慮	28	成果発表の準備
14	研究の実施	29	論文査読について
15	研究の実施	30	成果発表と研究限界

【履修上の注意事項】

長期履修生については、進度をみながら別途日程調整をする。
上記を2コマずつ実施するため、全部で60コマとなる

【評価方法】

中間報告会15%、文献レビュー25%、研究活動とレポート60%を合計して評価する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

各自の研究テーマに従い、適宜、紹介する。

地域看護学特論

担当教員 ○生野 繁子、福本 久美子、A. J. サザランド、開田 ひとみ

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

自治体の行政サービスから国際的な範囲（国際協力）まで視野に入れ、全ての人が生涯を通じ、健康的な生活を営むために、ヘルスプロモーションの視点（住民主体・住民参加、自己決定・協働）に基づく地域看護活動の方法と地域看護職の役割について学ぶ。特に、歴史的資料や先駆的な活動事例、地域看護職のパートナーから看護活動への提言等から、地域看護活動の本質を探究し、地域看護の専門職としてのあるべき姿を再認識し、地域看護の将来展望を抱くことができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	福本/生野 地域看護学の目標・理念	16	福本 ライフスタイルと健康②
2	福本 地域看護と公衆衛生看護	17	アラン 健康格差と公正①
3	開田 地域看護と在宅看護	18	アラン 健康格差と公正②
4	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	19	アラン 健康格差と公正③
5	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	20	アラン 健康格差と公正④
6	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	21	福本 公害と健康①
7	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	22	外部講師 公害と健康②
8	福本 地域看護の活動理論①	23	福本 母子と健康①
9	福本 地域看護の活動理論②	24	福本 母子と健康②
10	福本 地域看護の対象と活動の場の広がり	25	生野 高齢者と健康
11	開田 地域看護技術①（家庭訪問）	26	開田 高齢者と健康
12	福本 地域看護技術②（健康教育）	27	外部講師 住民から見た地域看護活動
13	福本 地域看護技術③（地区診断）	28	外部講師 マスコミから見た地域看護活動
14	福本 地域看護技術④（地区組織活動）	29	外部講師 外国人から見た地域看護活動
15	福本 ライフスタイルと健康①	30	福本/生野他 まとめ(地域看護活動の本質)

【履修上の注意事項】

授業前後の予習復習を行うこと

【評価方法】

予習・復習による自主的学修態度 20%、レポート 80%（期日までに提出がない場合は減点）

【テキスト】

コミュニティアズパートナー（地域看護学の理論と実際） エリザベスT. アンダーソン他編集、金川克子他監訳
医学書院

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

地域看護学演習

担当教員 ○生野 繁子、福本 久美子、A. J. サザランド、開田 ひとみ

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

- 1) 地域看護学における地域の健康課題把握方法としてフィールドワークの重要性を理解し、地域看護学領域の活動とその課題について情報を得る。
- 2) 国内外の地域看護学領域に関する先行研究論文から、研究課題について考察できる
- 3) 研究方法や研究の進め方、論理的な考え方の基礎的能力を習得する。
- 4) 自己の研究課題の明らかにし、研究計画を完成できる。

【授業の展開計画】

1. フィールドワークの概要（1年後期5コマ）（福本）
 - ①地域看護領域のフィールドワークの実践事例を把握する。
 - ②フィールドワークを通して地域看護領域における分析的視点を学ぶ。
 - ③自己の看護実践や研究のテーマとの関連について考察する。
2. 地域看護学領域に関する先行研究論文の抄読（1年後期～2年前期20コマ）（福本、生野）
 - ①大学院生各自が国内外の研究論文を検索し、抄読する。
 - ②抄読した論文の趣旨や結果等の内容、その論文の研究手法や結果等に関する課題を発表し、参加者で議論する。
 - ③研究論文の抄読と議論を通して、研究における論理的な思考方法、具体的な研究方法に関する基礎的な能力を習得する。
3. 自己の研究課題の明らかにできる（2年前期5コマ）（生野、福本）
 1. 2. を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画を完成する。

【履修上の注意事項】

授業前後の予習復習を行うこと

【評価方法】

レポート60%（期日までに提出がない場合は減点）、発表40%

【テキスト】

コミュニティアズパートナー（地域看護学の理論と実際）
エリザベスT. アンダーソン・ジュディス・マクファーレイン編集、金川克子・早川和生監訳

【参考文献】

参考図書は、適宜紹介する。

地域看護学研究

担当教員 ○生野 繁子、福本 久美子

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。

【授業のねらい】

1. 文献検索等により自己の研究テーマを明確にし、研究計画に基づく研究の実践を通して、看護研究についての理解を深める。
2. ヘルスプロモーションの理念に基づく実践的研究のプロセスや研究成果を模索し、自己の研究テーマに基づく論文を作成する。

【授業の展開計画】

1. 研究方法の探究（研究方法論に関する講義並びに文献学習）
研究テーマに関連した原著論文やその他の論文を分析的に読みこみ、研究課題の視野を広げる
2. 自己の問題意識を明確化と研究計画書の作成
3. データの収集と分析
4. 論文の作成と研究成果の報告

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	研究方法の探究(研究に関する考え方)	16	研究の実施(データの分析)
2	研究方法の探究(質的研究方法)	17	研究の実施(データの分析)
3	研究方法の探究(量的研究)	18	研究論文の作成
4	研究における倫理的配慮	19	研究論文の作成
5	研究テーマの検討(文献検討)	20	研究論文の作成
6	研究テーマの検討(文献検討)	21	研究論文の作成
7	研究テーマの検討(文献検討)	22	研究論文の作成
8	研究計画書の作成	23	研究論文の作成
9	研究計画書の作成	24	研究論文の作成
10	研究計画書の作成	25	研究論文の作成
11	研究計画書について倫理委員会提出	26	研究論文の作成
12	研究の実施	27	研究成果の報告
13	研究の実施(データの収集)	28	研究成果の修正
14	研究の実施(データの収集)	29	研究成果の修正
15	研究の実施(データの分析)	30	最終報告

【履修上の注意事項】

授業に臨む折は事前準備を行い、授業後は再確認すること

【評価方法】

研究プロセス40%、研究論文 60%

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック．木原雅子他著：医学的研究のデザイン． その他の参考図書は適宜紹介する。